Message for the 20th anniversary issue

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-01-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金子, ハルオ メールアドレス: 所属:
URL	https://otsuma.repo.nii.ac.jp/records/5744

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

「人の和」をもってさらなる発展を！

大妻女子大学名誉教授（元社会情報学部長）
日本社会情報学会名誉会員（元副会長）　　金子ハルオ

社会情報学部創立20周年、おめでとうございます。時の流れの速さ、社会の情報化の速さに感慨無量です。さて、私が旧制高校の漢文の授業で習った故事成語に「天の時は地の利に如かず地の利は人の和に如かず（孟子・公孫丑・下）」という句があります。物事を成功させるのには、天の時と地の利と人の和が大切であるが、人びとが目的に向かって信頼しあい協力しあう「人の和」こそが最も大切であるということです。

これは私が在職中に何度か述べたことですが、学部の創立時には、この句にいう３つの条件が揃っていました。第１に、天の時。学部の設立は、情報化社会の到来を的確に見据えつつ、大学進学適齢期である18歳人口の増大期の最後を捉えてなされました。私は設立に先立って本学部への勧誘のために都内の多くの高校を訪れましたが、「女子大唯一の情報学部」というキャッチ・フレーズが時代の先端を行く響きをもって迎えられたものです。第２に、地の利。学院の先見の明により、大規模開発と人口増大が進む東京西郊に多摩キャンパスが確保されていました。唐木田駅の開設は、この地の利を決定づけました。第３に、人の和。社会情報学は、情報という切り口から多くの専門分野の研究を総合するような学問です。このいわゆる学際的な学問の研究と教育のためには、文系であれ理系であれ多くの専門分野にまたがる学者の方、さらには行政・福祉・マスコミなどの分野で豊富な知識と経験を有する方を集め、緊密に協力し合っていかなくてはなりません。こういう新しい学問を築こうという糸で結ばれた優秀な人材を集め、専門や出身を超えた信頼と協力の関係つまり「人の和」を築くのに、本学部は成功しました。

ところで、創立以来の20年間に、経済のグローバル化・社会の情報化の急速な進展など、世界と日本の社会状況は大きく変化し、それに応じて学部を取り巻く条件も変化してきました。先ず、天の時。18歳人口は減少期に入り、不況期と重なって受験生は急減しました。高校生の殆どが携帯電話を持ち、パソコンを使うようになり、また情報関係の学部も多く設立され、「女子大唯一の情報学部」という看板も使えなくなりました。次に、地の利。かつてのバブル経済と土地神話は夙に崩壊し、大学の郊外移転ラッシュも終わり、逆に大学の都心回帰が進行するようになりました。このように天の時は去り、地の利も減じたのに対して、人の和は堅持されています。かつて私が草案を書き教授会で決められた「選考規定と選考基準」にもとづき、定年退職などによって年ねん生じる欠員を、主として公募によって得られた優秀な人材をもって補充しています。また、こうして維持されているスタッフの多くが、かつて創立まもない本学部で創立大会を開いた日本社会情報学会の有力な働き手として、わが国の社会情報学の発展に寄与しています。このようにして堅持されてきた人の和の中軸になる学部長に、かつて私のもとで各専攻主任を務められた野崎昭弘教授、伊藤朋恭教授、前納弘武教授、さらには東明佐久良教授という優秀な学者の方がたが順次に就任されてきたことは、まことに心強い限りです。どうか、天の時や地の利は時代とともに変わるとしても、このような「人の和」をもって、本学部がさらなる発展を遂げることを期待して止みません。